

連載 亀ちゃんにも言わせてよ！

刑務所が変わろうとしている？

刑務所は何色？

刑務所という言葉からイメージする色は何色でしょうか。多くの人が灰色やその他暗い色を想像するのではないのでしょうか。また、実際に刑務所に行ったことがある人、受刑経験者は無論、参観(見学のこと)したことがある人も改めて尋ねられると同じような色を想像するものと思います。私も何度も刑務所参観をしましたが、改めて自分に問うと灰色を思い浮かべました。

思うに、実際の刑務所を見たことがない人は、おそらく刑罰というマイナスのイメージや閉じこめる場所というイメージ(コンクリートの塀や壁など)から暗い色や灰色系の無機質な色を思い浮かべるのではないのでしょうか。では、実際に刑務所の参観経験のある私はなぜ灰色を思い浮かべたのでしょうか。たぶん自分の記憶のなかで、そのとき最も多く目に入っていた色を思い浮かべたのでしょう。たしかに、コンクリートの塀や壁といったものもありましたが、受刑者の着衣(刑務作業をしていたときの服)の色のイメージが強く思い出されます。

明るく衣替え？

4月2日付朝日新聞夕刊に「刑務所 明るく衣替え」との見出しを付けた記事がありました。記事によると「法務省は受刑者の衣服や布団の色を明るい色に改める方針を決めた。色彩心理学の専門家の意見を取り入れ、前向きな気持ちで更生に取り組めるよう、刑務所を明るくする」とのことです。また、着衣の色については監獄法施行規則にあった規定を1966年に改正したときに削除されていたましたが、その当時まで使用されていたものがそのまま使われ続けていたそうです。そのため、現在使われている「布団と、無地か、灰色と黒のストライプなどとなっている作業着や舎

房衣などの衣服」が変更の対象になっています。ここで、受刑者の着衣はイメージ通りの色ですが、布団は意外かもしれませんがオレンジと緑の太い縞模様です。これらについて、法務省矯正局が色彩心理学の専門家2人に意見を求めたところ、布団は「対決色で緊張を強い、攻撃心を誘発して、眠りに就くのに適さない」、着衣は「潤いに欠ける」という酷評をいただいたそうです。そのため、布団は安眠できる色に、刑務作業の作業着や舎房着は前向きに生きる意欲を引き出せるような明るい色を検討しているとのことでした。

やる気があれば

この記事の終わりに「97年に矯正保護審議会が『明るい色彩に』と提言していたが、予算面などから見送られていた」とあります。犯罪対策として取り締まり強化を理由に警察官の増員は行われますが、処遇にかける予算が増えたという話はなかなか聞きません。犯罪者にそんなにお金(税金)をかけるなんてという市民の声があることも事実でしょうが、彼らがいずれ社会に戻ってくることを考えて、まずはいいと思うことを出来ることからやってみてはどうでしょうか。それに、予算がどうか言いますが、布団や衣服は消耗品であり何年か使っているうちに取り替えるものです。そのときに色彩心理学的に良いとされているものに替えていけば新たに予算をつけなくてもいいですよ。ほんとうにやる気があれば工夫できることもあると思います。

余談ですが、十数年前、私が大学院生として刑務所参観に行った先で何度か壁の色を変える気がないか尋ねたことがあります。それは当時、何の雑誌か忘れましたが、アメリカの刑務所で壁の色をピンク(だったと思います)に変えたところ所内の暴力事件が減ったという記事を見たからです。

しかし、そのときの大半の刑務官は「何を言っているんだ、こいつは」と言わんばかりの対応でしたし、中には真摯な態度で「そういうことは考えたことはないけど、予算的にも難しいと思いますよ」などと答えた方もいました。せっかく布団や衣服の色を再検討するのだから、中にいる受刑者が毎日目にする壁の色も色彩心理学の専門家に意見を求めてみてはどうでしょうか。壁だっていつかは塗り直すのですから、そのときに、今と違う色にすれば新たな予算は要りませんよね。

とにかく、現在と同じ予算で出来るのであれば、対費用効果云々を言う前にいろいろ試みても良いのでは。みなさんはどう考えますか。

亀山憲一 [会員・フリーで活動中の法学研究者
(犯罪学・刑事法)]